

## 12. 大学として取り組んでいる連携事業

### 12.1 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

#### 実施団体名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学、石川県立看護大学

#### 概要

北信がんプロの実施内容として2017年より開始された事業である。

- 1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース。
- 2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。
- 3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。
- 4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。
- 5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育における、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、インテンシブコースでの地域の医療従事者へのがんに関する知識・技術の普及である。特徴として、北陸、信州地域のがん関連病院をつないだテレビ会議システムを用いた事例検討会を実施し、がんに関心する看護師の育成に努めることである。2022年度でこのプログラムは一旦休止となる。

#### 12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野 智恵 教授（附属地域ケア総合センター長兼）

委員：石垣教授（学長）、松本智講師、大江講師、今方助教、桶作助教、瀧澤助教

事務局：西田事務局長、森主幹、林専門員、岡山事務員

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

がんライフステージコース（履修期間2年）に2名の申し込みがあった。修了者は1名であった。

2. インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の4つのコースへの募集および成績判定を行った。

##### ①がんライフケアコース

看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカーを対象としたコースで、今年度は、受け入れ目標5名に対して、6名が申請した。

コース名	職種	受入目標人数						受入実績					
		H29	H30	R01	R02	R03	計	H29	H30	R01	R02	R03	計
がんライフステージ	看護師	0	2	2	2	2	8	0	1	3	2	1	7
がんライフケア	他職種	2	5	5	5	5	22	3	10	9	6	6	34

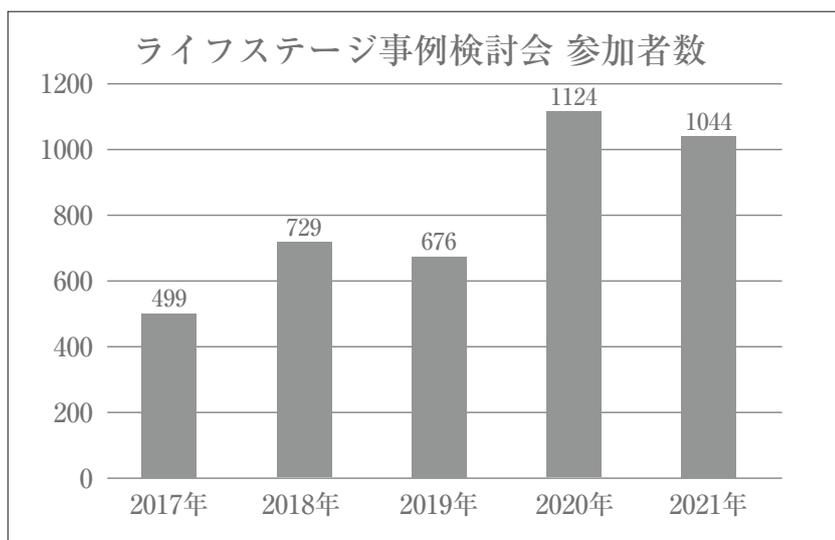
### 3. がんプロ企画の実施と評価

今年度は、2種類の事例検討会と、2つの公開講座を実施した。

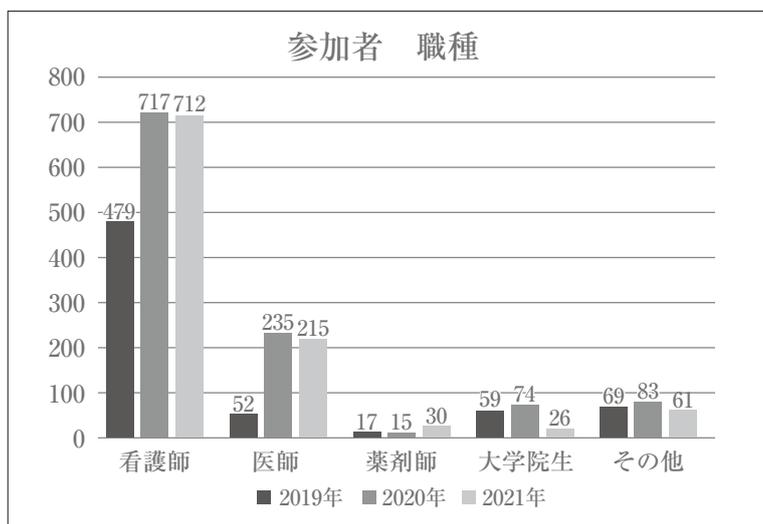
#### 1) ライフステージ事例検討会およびCNS関係者によるがん看護事例検討会企画・評価

##### ① ライフステージ事例検討会の実施

昨年度から、各病院が新年度から新型コロナウイルス感染拡大を予防する観点から、多数が集まる会議等中止し、個人のパソコンからも参加できるようにした。その結果、今年度の参加者は、計1044名（昨年度1124名）の参加者数となった。また、医師の参加者数は 215名（昨年度235名）で、医師からの質問も多く、効果的な事例検討会が開催できた。開催方法の変更が参加者数増加に大きく貢献できた。



事例検討会の参加者数の5年間の比較



事例検討会への職種別参加者数の過去3年間の比較

##### ②がん看護専門看護師関係者による事例検討会

7月17日（土）および9月7日（火）にCNS関係者による看護事例検討会を開催した。

1回目は、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため三密を回避した会場とオンラインでのハイブリット開催形式を採用した。2回目は平日夕方の開催であったため、

利便性を踏まえて完全オンライン開催とした。1回目の参加者は、計22名であった。がん看護CNSから事例提供があり、治療方針や今度の生き方に関する患者、家族、医療者の意見の相違に対して真剣に話し合われた。CNSが実践した方略について意見交換がなされ、多くの学びがあった。

2回目は今年度CNSを受験予定のCNS候補生から、事例提供があった。参加者は計18名であった。患者に寄り添った実践的な取り組みについて立場を超えて活発なディスカッションが行われた。CNSの専門性や経験に基づいた的確な助言もあり、有意義な会となった。

## 2) 「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」〈基礎編〉および〈アドバンス編〉の企画・評価

本年度は、新型コロナウイルスによる感染拡大予防の観点から、基礎編は学内での対面参加者を制限し、ハイブリット型での開催とした。

①基礎編は9月23日(木)に、石川県済生会金沢病院の高地弥里さん(がん看護専門看護師)を講師として招き、本学にて実施した。当日は、65名の参加があった。

②応用編は、10月9日(土)に、高地弥里さんと、ナースソフィア(株) 訪問看護ナースソフィアにいかわの時山麻子さん(がん看護専門看護師)を招き、これまでの基礎編に参加した人の中から4名が参加した。この時期は、コロナの第5波の影響で参加者が少なかったが、セミナーの理解度・満足度は高く、「実践編ということで、自分がやってみないと分からない部分を知ることが出来て大変良かった」「実際に自身の患者さんとの関わり方、注意点などを再確認できるきっかけになった」などの意見をいただいた。今後も臨床でより役立つ研修となるよう、講師の方々とともに研修を実施していきたい。

## 3) 北信がんプロ合同市民公開講演会の実施評価：

11月22日(月)、北信がんプロの市民公開講座として、「がんサロンの活動を知ろう～コロナ禍でのがん患者支援の現状と課題～」を開催した。

第1部では福井県済生会病院メディカルカフェの車屋知美様(臨床心理士)、富山県がん総合相談支援センターの尾川洋子様(総括相談員)、がんとむきあう会・元ちゃんハウスの西村詠子様(理事長)、石川県がん安心生活サポートハウス・つどい場はなうめの木村美代様(看護師)、マギーズ東京の秋山正子様(共同代表理事)から、それぞれの活動とコロナ禍での活動の工夫についてお話しいただいた。

今回は、石川県立看護大学を本部とし、完全リモートで開催した。全国のがん体験者や医療従事者の約167名が参加し、がんサロンへの関心の深さが伺えた。

それぞれのサロンが、リモートをいち早く取り入れ、また、これまでになかった電話による相談を充実させていた。また、予約によって対面での相談を実施しているところもあった。

## 4) FD・SD市民公開講座の実施・評価

①7月17日(土)、石川緩和医療研究会との共催にて、「第27回石川緩和医療研究会」を完全リモートで開催し、石川県立看護大学の牧野智恵が当番世話人を務めた。71名の参加申し込みがあり、テーマへの関心の深さが伺えた。

第1部では緩和医療に携わっている医師や看護師からの研究報告、第2部では神戸大学医学部附属病院緩和と支持治療科の木澤義之特命教授による、「コロナ禍の状況における緩和ケア実践の現状とその対策」の講演をいただいた。

②3月10日(木) 英国のドロシーハウス・ホスピスとZoomによるオンラインシステムを

駆使し、「英国緩和ケアWEB研修」を開催した。当日は、第1部は、ドロシーハウスの紹介、スピリチュアルケアについて、第2部では、「コロナ禍における専門的緩和ケアの提供について、悲嘆と死別について講演とディスカッションを行った。17時～19時50分頃までであったが、108名の看護師、医師などからの申し込みがあり、有意義な意見交換が行われた。アンケートでは、「とてもよかった、よかった」が90%を占めていた。

## 外部報告

令和3年度事業報告書

## 外部資金

研究拠点形成費等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）

令和3年度北信がんプロ予算総額58,698千円（うち令和3年度 本学配分額）4,000千円